

カワウ対策と生態理解

～ 小菅川における複合対策の考え方 ～

カワウの行動特性や捕食環境を理解し、黒テグス・キラキラテープ・案山子・人的活動を含めた複合対策について整理した配布資料

カワウは非常に視力の良い鳥

カワウは、水面付近の魚を発見する能力に優れた鳥です。飛行中でも魚の存在や、「魚が溜まりやすい場所」を把握していると考えられています。ただし、空から一尾ずつ細かく見ているというよりも、周囲の環境変化を総合的に判断しています。

カワウが飛行中に見ているもの

- ・魚影の動き
- ・水の色の変化
- ・浅場・淵・流れのヨレ
- ・群れの反射
- ・放流魚特有の動き
- ・他のカワウが潜っている場所

放流直後の魚が狙われやすい理由

放流直後の魚は、

- ・群れやすい
- ・流れに馴染んでいない
- ・浅場に留まりやすい
- ・動きが単調

という特徴があり、上空から発見されやすい傾向があります。

カワウが狙いやすい場所

【狙われやすい条件】

- ・水深30cm～1.5m程度

- ・流れが緩い
- ・魚が群れている
- ・見通しが良い
- ・障害物が少ない
- ・白泡が少ない

特に、

- ・プール
- ・トロ場
- ・放流直後の溜まり

は注意が必要です。

カワウが嫌う場所

- ・強い瀬
- ・白泡の多い場所
- ・岩が複雑に入る場所
- ・倒木やえぐれが多い場所
- ・極端に深い場所
- ・流速変化が激しい場所

理由としては、

- ・水中視界が悪くなる
- ・魚を追い切れない
- ・羽を傷める危険がある
- ・潜水効率が落ちる

ためと考えられています。

黒テグスが効果的と考えられる理由

カワウは視力が良い反面、細く見えにくいラインへの接触を嫌う傾向があります。

特に黒テグスは、

- ・背景に溶け込みやすい
- ・水面反射で見えづらい
- ・飛行ルートを遮断できる

といった特徴があり、

「ここは危険かもしれない」という学習効果を与えやすいと考えられています。

キラキラテープと案山子の役割

キラキラテープは、視覚的な違和感や落ち着かない空間を作る役割があります。

また、案山子は「人の存在」を演出する効果が期待できます。

小菅村漁協による監視・追い払いの重要性

小菅村漁協による見回りやパトロール、追い払い活動も重要な対策の一つです。

定期的な人的プレッシャーを与えることで、

カワウに「この場所は安全ではない」という学習効果を与えることにつながります。

特に早朝や夕方など、カワウの行動時間帯に合わせた監視活動は抑止力として効果が期待されています。

つり人の存在による抑止効果

つり人が川に入ること自体も、カワウへの抑止効果につながります。

人の動きや気配が継続的にある場所では、カワウは警戒しやすくなります。

特に小菅川のようなフィールドでは、

「多くの人に川へ来てもらい、自然を楽しんでもらうこと」そのものが、

結果として魚を守ることにもつながっています。

小菅川における複合対策の考え方

黒テグス = 侵入阻止

キラキラテープ = 警戒心増加

案山子 = 人の存在演出

漁協の監視・追い払い = 学習効果の強化

つり人の存在 = 継続的な人的プレッシャー

これらを組み合わせることで、単独対策よりも高い効果が期待できます。

特に小菅川のような「開けたプール+放流魚」が存在する環境では、複合対策の意味は非常に大きいと考えられます。